

東海新報

2019年9月7日

「絆」をよりどころに

岩室医師
が啓発

こころの健康講演会で

陸前高田

陸前高田市の「こころの健康講演会」は5日、高田町の市コミュニティホールで開かれた。同市のノーマライゼーション大使で、ヘルスプロモーション推進センター（オフィスいわむろ）代表の岩室紳也医師が心の健康づくりをテーマに講演し、他者とのつながりが心のよりどころとなることを伝えた。

岩室氏の専門は泌尿器科。公衆衛生に造詣が深く、性教育、エイズ教育などをテーマに全国各地で講演活動を行っている。平成28年からは同大使も担い、人と人との絆を育む「はまっつてはらいん、かだつてはらいん運動（略称・はまかだ）」の推進策を模索する同市未来図会議にもアドバイザーとしてたびたび参加している。

講演会には、市民ら約50人が来場。岩室氏は都道府県別や県内市町村別の平均寿命、男女別、年齢別の自殺者数のデータを示し、「自殺者は女性よりも男性の方が多く、各年代で自死が減少傾向にあるが、若者の自死は減っていない」と解説した。そのうえで「うつ病、生活苦などさまざまな原因がある自殺を防ぐ」とする場合、早期発見・早期対応ではなく、根本的な原因や社会に他者とのつながりの重要性を説いた岩室医師



まん延するリスクを探るべき」と強調。「大切なのは他者との関わりやつながり。支えるときも、支えられているときもそれが心の居場所となる。他人に迷惑をかけていない人はおらず、依存先を増やすことで自立につながる」と訴えた。